

衛研第1-40号
平成28年 1月 6日

感染症発生動向調査事業
各関係機関の長様

埼玉県衛生研究所長

感染症発生動向調査事業週単位情報の送付について（通知）

このことについて、別添のとおり送付いたします。

担当 埼玉県衛生研究所 感染症疫学情報担当
電話 0493-59-9325
FAX 0493-59-9613
e-mail p5349952@pref.saitama.lg.jp

感染症患者発生情報（週報）

埼玉県内情報 平成 27 年 第 52 週（平成 27 年 12 月 21 日～平成 27 年 12 月 27 日）

今週の注目される疾患

全数把握対象疾患では、一類から三類感染症(二類：結核を除く)の届出はなかった。四類感染症はレジオネラ症 2 人の届出があった。五類感染症は、アメーバ赤痢 2 人、ウイルス性肝炎 1 人、侵襲性インフルエンザ菌感染症 1 人、侵襲性肺炎球菌感染症 4 人、水痘(入院例)1 人、梅毒 1 人の届出があった。

定点報告対象疾患では、**A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎**(4.04 3.73)の定点当たり報告数は、前週よりやや減少したが、依然多い状況が続いている。保健所別では、春日部(5.50 8.67)保健所管内で大きく増加し、川口市(7.25)、熊谷(6.11)保健所管内からの報告が多い。年齢階級別では、4～8 歳で全体の 60.0%を占めている。**感染性胃腸炎**(12.52 12.04)の定点当たり報告数は、前週と同水準に留まった。保健所別では、川口(14.81 19.50)保健所管内で大きく増加し、熊谷(23.33)保健所管内からの報告が多い。年齢階級別では 1 歳が最も多い。**流行性耳下腺炎**(1.20 1.03)及び**伝染性紅斑**(0.92 0.90)の定点当たり報告数は、前週よりやや減少したが、前年同時期より多い状況が続いている。保健所別では、前者は幸手(3.67)、春日部(3.17)保健所管内からの報告が多く、後者は加須(1.83)、川口(1.64)保健所管内からの報告が多い。**咽頭結膜熱**(0.85 0.72)の定点当たり報告数は、前週より減少し、保健所別では、春日部(1.33)、坂戸(1.33)保健所管内からの報告が多い。**インフルエンザ**(0.45 0.54)の定点当たり報告数は、前年までの同時期に比べ少ない状況ではあるが、前週より増加した。保健所別では、川口(0.96)保健所管内からの報告が多い。眼科定点報告対象疾患では、**流行性角結膜炎** 58 人の報告があり前週(50 人)に引き続き増加した。基幹定点報告対象疾患では、**無菌性髄膜炎** 1 人、**マイコプラズマ肺炎** 8 人、**クラミジア肺炎** 1 人の報告があった。

<全数把握対象疾患の患者情報>

一類感染症	報告なし	
二類感染症	報告なし(結核を除く)	
三類感染症	報告なし	
四類感染症	レジオネラ症	2 人(病型 肺炎型 2 人)
五類感染症	アメーバ赤痢	2 人(病型 腸管アメーバ症 1 人、腸管外アメーバ症 1 人)
	ウイルス性肝炎	1 人(病型 B 型)
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1 人
	侵襲性肺炎球菌感染症	4 人
	水痘(入院例)	1 人(病型 検査診断例)
	梅毒	1 人(病型 早期顕症 期)

インフルエンザウイルス検出状況

草加(1 人)、川口(2 人)保健所管内で採取された検体から、前週以降新たに AH1pdm09 が 2 件、B 型が 1 件検出された。9 月以降の検出は AH1pdm09 が 4 件、A 香港が 3 件、B 型が 3 件となった。

1 この情報に関する御質問・御意見等がございましたら、下記まで御連絡ください。

衛生研究所 感染症情報担当者会議(感染症疫学情報担当) TEL: 0493-59-9325 FAX: 0493-59-9613

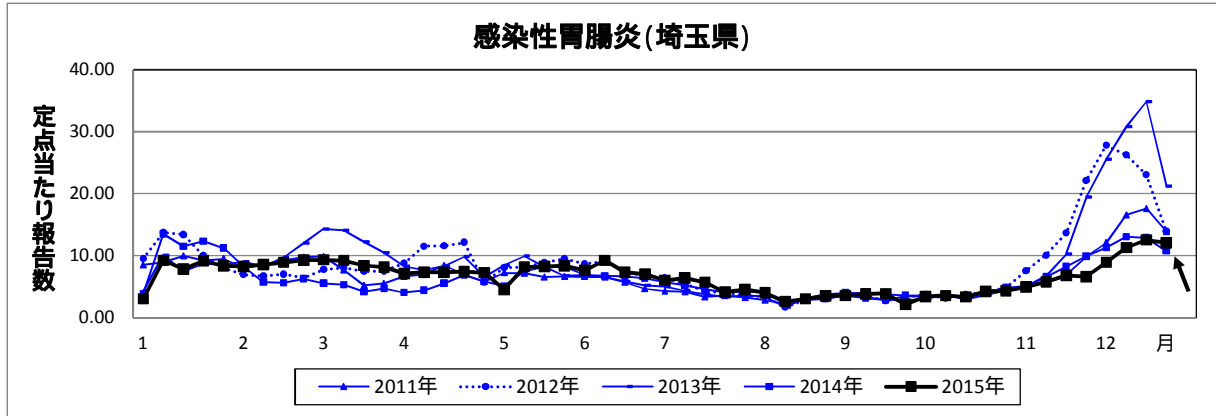
e-mail: p5349952@pref.saitama.lg.jp URL: <http://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/surveillance/index.html>

2 全国の感染症発生動向に関する情報は、国立感染症研究所の感染症疫学センターホームページ(URL: <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>)で御覧になれます。

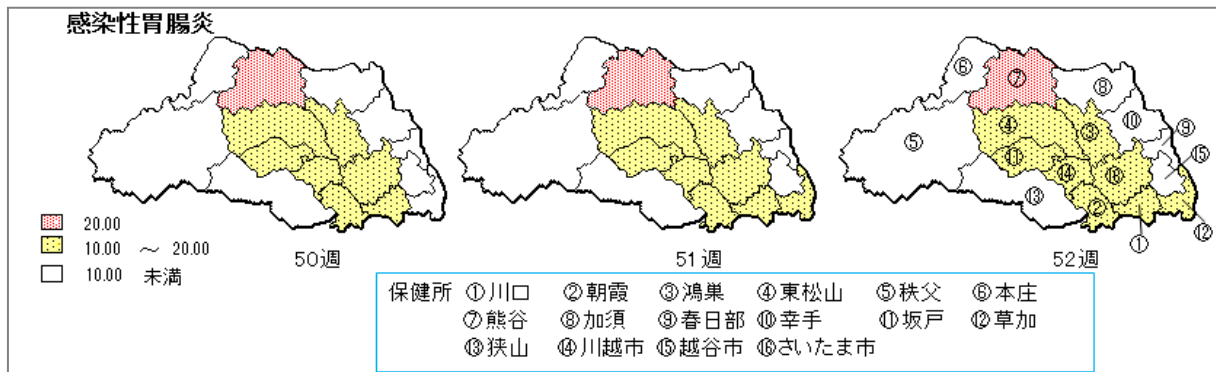
注目すべき疾患

- 感染性胃腸炎 -

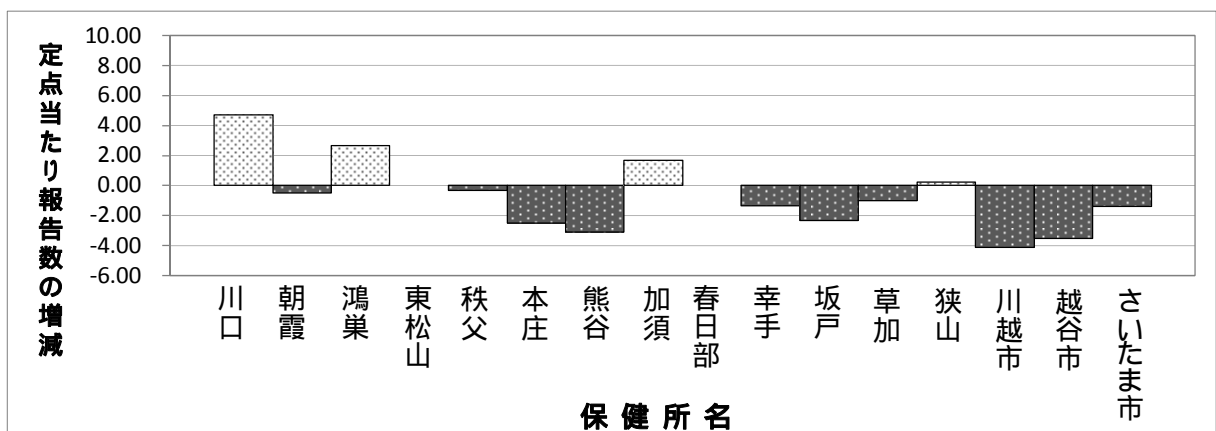
52週の感染性胃腸炎の報告患者数は県全体で1,902人、定点当たり報告数は12.04で、前週の2,016人、定点当たり報告数12.52と同水準であった。



保健所別では、定点当たり報告数が20.00を超えている熊谷保健所その他、県央部及び県南部保健所管内で50週以降多い状況が続いている。前週との比較では、川口保健所管内で大きく増加した。



保健所別の定点当たり報告数の推移

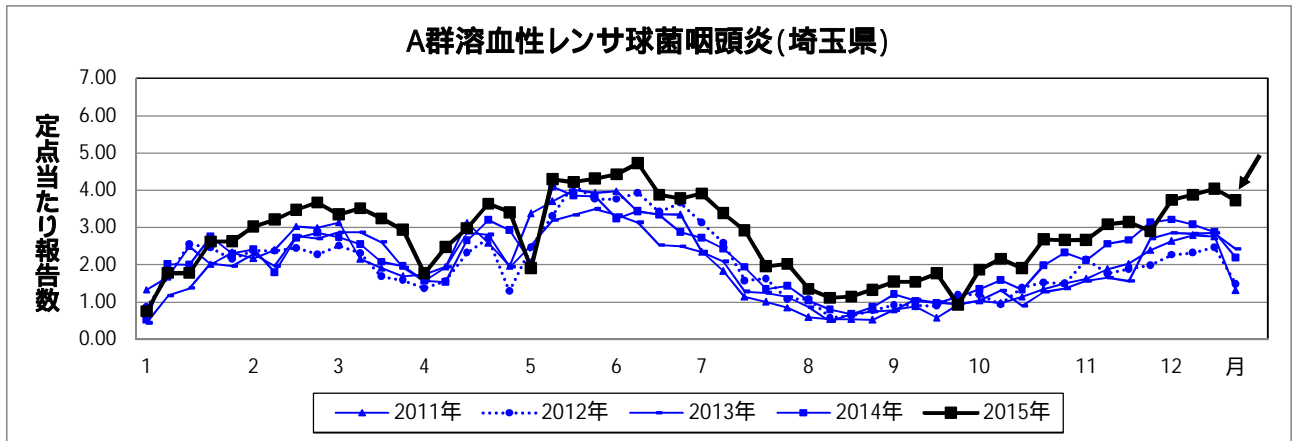


保健所別の定点当たり報告数の増減(51週と52週の比較)

< 定点把握対象疾患の患者情報 >

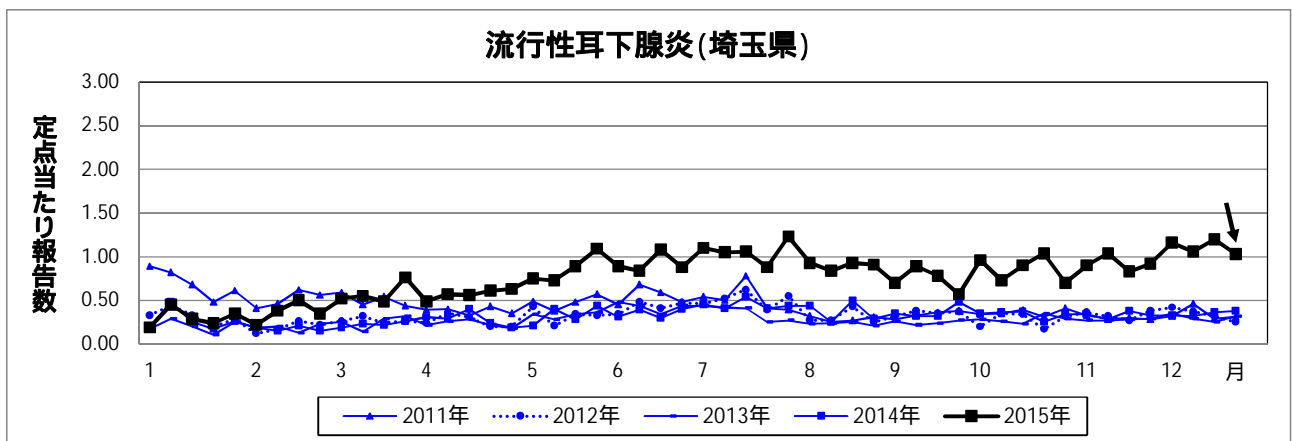
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

県内全保健所から報告があった。保健所別では、春日部(8.67)、川越市(7.25)保健所管内からの報告が多い。



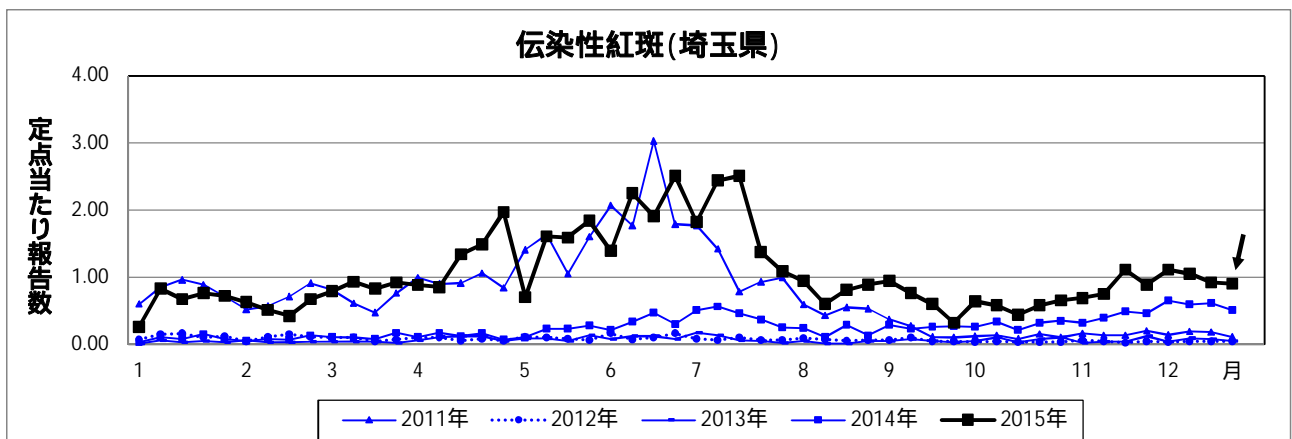
流行性耳下腺炎

秩父及び本庄保健所を除く県内 14 保健所から報告があった。保健所別では、幸手(3.67)、春日部(3.17)保健所管内からの報告が多い。



伝染性紅斑

秩父、春日部及び越谷市保健所を除く県内 13 保健所から報告があった。保健所別では、加須(1.83)、川口(1.64)保健所管内からの報告が多い。



感染症発生状況(全数把握対象疾患)
(第52週)

(2016年1月5日 15:00集計)

	今週 届出	累 計		今週 届出	累 計
一類感染症					
エボラ出血熱			ペスト		
クリミア・コンゴ出血熱			マールブルグ病		
痘そう			ラッサ熱		
南米出血熱					
二類感染症					
急性灰白髄炎			中東呼吸器症候群(MERS)		
結核*	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)		
ジフテリア			鳥インフルエンザ(H7N9)		
重症急性呼吸器症候群(SARS)					
三類感染症					
コレラ			腸チフス		1
細菌性赤痢		6	パラチフス		1
腸管出血性大腸菌感染症		168			
四類感染症					
E型肝炎		7	鳥インフルエンザ(H5N1を除く)		
ウエストナイル熱			ニパウイルス感染症		
A型肝炎		16	日本紅斑熱		
エキノкокクス症			日本脳炎		
黄熱			ハンタウイルス肺症候群		
オウム病		1	Bウイルス病		
オムスク出血熱			鼻疽		
回帰熱			ブルセラ症		
キャサヌル森林病			ベネズエラウマ脳炎		
Q熱			ヘンドラウイルス感染症		
狂犬病			発しんチフス		
コクシジオイデス症			ボツリヌス症		
サル痘			マラリア		1
重症熱性血小板減少症候群			野兎病		
腎症候性出血熱			ライム病		
西部ウマ脳炎			リッサウイルス感染症		
ダニ媒介脳炎			リフトバレー熱		
炭疽			類鼻疽		
チクングニア熱		1	レジオネラ症	2	91
つつが虫病			レプトスピラ症		
デング熱		13	ロッキー山紅斑熱		
東部ウマ脳炎					
五類感染症					
アメーバ赤痢	2	30	侵襲性肺炎球菌感染症	4	81
ウイルス性肝炎(E型・A型を除く)	1	6	水痘*	1	10
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症		39	先天性風しん症候群		
急性脳炎		28	梅毒	1	100
クリプトスポリジウム症			播種性クリプトコックス症		7
クロイツフェルト・ヤコブ病		10	破傷風		2
劇症型溶血性レンサ球菌感染症		11	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		
後天性免疫不全症候群		35	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		9
ジアルジア症		4	風しん		8
侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	14	麻しん		3
侵襲性髄膜炎菌感染症		2	薬剤耐性アシネトバクター感染症		1
指定感染症	該当疾患は無し				

水痘* : 患者が入院を要すると認められるものに限る。

ウイルス性肝炎(A型・E型を除く)再掲	B型	C型	D型	その他
累計	5			1

累計は診断日で集計

* 結核は月単位で集計、別に掲載します。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (第52週 平成27年12月21日～平成27年12月27日)

	合計																				
	-6ヵ月	12ヵ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14歳	15-19歳	20-29歳	30-39歳	40-49歳	50-59歳	60-69歳	70-79歳	80歳以上	
インフルエンザ #1	135	1	2	9	9	8	14	7	6	2	6	6	9	5	7	13	13	7	6	4	1
RSウイルス感染症	241	53	46	96	34	6	3	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	113	1	1	22	10	14	29	18	8	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	590	-	2	16	24	45	71	76	72	71	64	54	69	3	23	28	28	28	28	28	252
感染性胃腸炎	1,902	18	103	298	216	182	165	140	126	112	75	59	128	28	252	252	252	252	252	252	252
水痘	211	4	7	14	6	11	37	17	33	37	23	8	11	1	2	2	2	2	2	2	2
手足口病	15	1	1	5	2	2	2	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	142	-	3	9	10	14	11	14	26	18	11	17	6	-	3	3	3	3	3	3	3
突発性発しん	69	1	29	30	8	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	163	-	-	1	9	13	23	24	23	14	22	14	18	1	1	1	1	1	1	1	1
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	58	-	1	3	1	5	2	-	2	-	-	-	2	1	9	15	7	2	6	2	2
細菌性髄膜炎 #2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	8	-	1	3	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 #3	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(入院)インフルエンザ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

表中の数値は各定点からの報告数(- : 0)

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

全国・関東情報 第 50 週

(12月7日～12月13日)

平成28年1月6日

インフルエンザの定点当たり報告数は2週連続で増加した。都道府県別の上位3位は秋田県(2.39)、沖縄県(1.28)、北海道(1.10)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は15例と前週と比較して増加した。都道府県別では13道県から報告があり、年齢別では0歳(3例)、1～9歳(1例)、40代(1例)、50代(5例)、60代(5例)、70代(1例)、80歳以上(3例)であった。

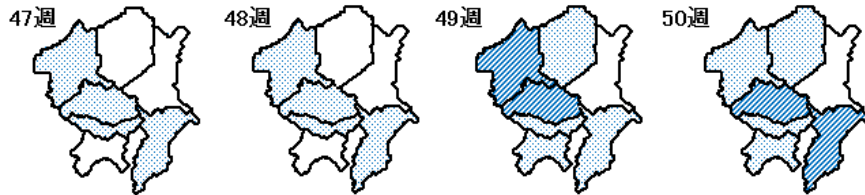
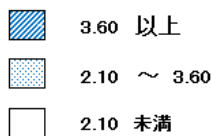
RSウイルス感染症の報告数は7,469例と2週連続で増加した。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約68%を占めている。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は2週連続で増加した。都道府県別の上位3位は鳥取県(2.63)、新潟県(2.27)、島根県(1.26)である。A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は2週連続で増加し、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は山形県(6.80)、鳥取県(6.68)、静岡県(6.48)である。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は2週連続で増加した。都道府県別の上位3位は大分県(24.33)、兵庫県(14.87)、愛媛県(14.73)である。水痘の定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は埼玉県(1.38)、福島県(1.20)、神奈川県(1.19)である。手足口病の定点当たり報告数は3週連続で減少した。都道府県別の上位3位は岩手県(0.70)、北海道(0.54)、青森県(0.45)である。伝染性紅斑の定点当たり報告数は2週連続で増加し、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は大分県(2.61)、秋田県(2.40)、山形県(2.27)である。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は3週連続で増加した。都道府県別の上位3位は石川県(3.41)、佐賀県(3.30)、長崎県(1.95)である。

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は富山県(2.60)、沖縄県(1.86)、奈良県(1.83)である。感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)の定点当たり報告数は第47週以降増加が続いている。21都道府県から40例報告があり、年齢別では0歳(4例)、1～4歳(29例)、5～9歳(5例)、40代(1例)、70歳以上(1例)であった。

<関東情報>

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は、埼玉県(3.88)、千葉県(3.81)からの報告が多い。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



平成27年 50週

		全国	関東地域	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県
インフルエンザ #1	報告数	1,690	471	20	16	30	100	60	181	64
	定点当たり	0.34	0.31	0.17	0.21	0.31	0.39	0.28	0.44	0.20
RSウイルス感染症	報告数	7,469	1,505	176	121	153	324	147	356	228
	定点当たり	2.36	1.59	2.35	2.52	2.55	2.00	1.09	1.36	1.10
咽頭結膜熱	報告数	2,010	581	51	6	27	138	123	137	99
	定点当たり	0.64	0.61	0.68	0.13	0.45	0.85	0.91	0.52	0.48
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	報告数	10,541	3,133	149	152	200	629	514	859	630
	定点当たり	3.34	3.30	1.99	3.17	3.33	3.88	3.81	3.29	3.03
感染性胃腸炎	報告数	32,022	11,148	507	215	615	1,827	1,308	3,734	2,942
	定点当たり	10.14	11.75	6.76	4.48	10.25	11.28	9.69	14.31	14.14
水痘	報告数	2,220	873	47	13	18	223	124	201	247
	定点当たり	0.70	0.92	0.63	0.27	0.30	1.38	0.92	0.77	1.19
手足口病	報告数	565	155	3	7	10	29	43	30	33
	定点当たり	0.18	0.16	0.04	0.15	0.17	0.18	0.32	0.11	0.16
伝染性紅斑	報告数	2,513	552	53	42	29	170	98	108	52
	定点当たり	0.80	0.58	0.71	0.88	0.48	1.05	0.73	0.41	0.25
突発性発しん	報告数	1,451	424	23	28	26	80	60	112	95
	定点当たり	0.46	0.45	0.31	0.58	0.43	0.49	0.44	0.43	0.46
百日咳	報告数	32	7	1	-	-	-	-	6	-
	定点当たり	0.01	0.01	0.01	-	-	-	-	0.02	-
ヘルパンギーナ	報告数	125	32	2	1	3	4	8	11	3
	定点当たり	0.04	0.03	0.03	0.02	0.05	0.02	0.06	0.04	0.01
流行性耳下腺炎	報告数	2,677	741	110	42	20	171	137	153	108
	定点当たり	0.85	0.78	1.47	0.88	0.33	1.06	1.01	0.59	0.52
急性出血性結膜炎	報告数	10	2	-	-	-	1	-	-	1
	定点当たり	0.01	0.01	-	-	-	0.02	-	-	0.02
流行性角結膜炎	報告数	554	192	19	12	20	35	17	24	65
	定点当たり	0.81	0.96	1.12	1.00	1.43	0.85	0.52	0.63	1.41
細菌性髄膜炎 #2	報告数	9	-	-	-	-	-	-	-	-
	定点当たり	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	報告数	25	5	-	2	-	1	-	2	-
	定点当たり	0.05	0.06	-	0.29	-	0.10	-	0.08	-
マイコプラズマ肺炎	報告数	377	79	9	7	7	14	7	30	5
	定点当たり	0.80	0.99	0.69	1.00	0.88	1.40	0.78	1.25	0.56
クラミジア肺炎 #3	報告数	15	2	-	-	-	-	-	2	-
	定点当たり	0.03	0.03	-	-	-	-	-	0.08	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	報告数	40	5	1	-	-	-	1	1	2
	定点当たり	0.08	0.06	0.08	-	-	-	0.11	0.04	0.22

#1 鳥インフルエンザを除く

#2 真菌性を含む

#3 オウム病を除く

(-0.00)

総合トップ

くらし・環境

健康・福祉

しごと・産業

文化・教育

県政情報・統計

総合トップ > 健康・福祉 > 感染症 > 感染症情報センター > 感染症の流行情報 > 感染症発生動向調査 > 感染症発生動向調査 2015年 > 感染症の流行状況 2015年 第52週

感染症発生動向調査 2015年

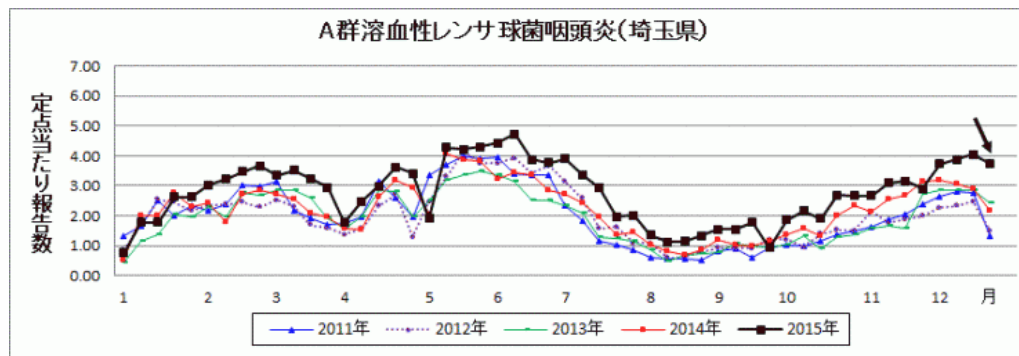
- [感染症の流行状況 2015年 第1週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第2週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第3週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第4週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第5週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第6週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第7週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第8週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第9週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第10週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第11週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第12週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第13週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第14週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第15週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第16週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第17週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第18週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第19週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第20週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第21週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第22週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第23週](#)
- [感染症の流行状況 2015年 第24週](#)

感染症の流行状況 2015年 第52週

2015年第52週（平成27年12月21日～12月27日）の要点 平成28年1月6日

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は、前週よりやや減少しましたが、多い状況が続いています。外出後の手洗い・うがいとともに、十分な休養をとるよう心がけてください。また、お子さんの体調がすぐれない時は、医療機関に電話で相談の上、早目に受診してください。

- [インフルエンザに関する情報はこちらをご覧ください。](#)
- [麻疹に関する情報はこちらをご覧ください。](#)
- [風しんに関する情報はこちらをご覧ください。](#)



感染症流行状況

疾患	推移	流行状況	疾患	推移	流行状況
インフルエンザ	↑	★	伝染性紅斑	→	★★
RSウイルス感染症	↓	★★★	突発性発しん	→	★
咽頭結膜熱	↓	★★	百日咳	→	★
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	★★★	ヘルパンギーナ	→	★
感染性胃腸炎	→	★★	流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	→	★★
水痘（みずぼうそう）	→	★★	急性出血性結膜炎	→	★
手足口病	→	★	流行性角結膜炎	→	★★★

*1. 推移、流行状況は、県内全域の傾向です。 *2. 推移は2週間前からの傾向を示します。(→:増減無し、↑:増加、↓:減少) *3. 流行状況は今週の流行を示します。(小さい←★、★★、★★★→大きい)

疾患名をクリックすると、各疾患の流行状況のグラフがご覧いただけます。

全国の感染症発生動向状況については、国立感染症研究所のホームページ「[感染症疫学センター](#)」(アドレス <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>)でご覧になれます。

この情報は毎週水曜日に更新する予定です。ただし、祝日等により変更の場合もあります。



埼玉県のマスコット コバトン